

令和8年度 瀬戸市DX 重点取組み事項のロードマップ

自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画【第 5.1 版】（令和8年1月30日改定）により分類しています											
狙い・目的	重点取組み事項	推進課／関係課	自治体デジタル・トランスフォーメーション推進計画（総務省）	令和7年度（2025）実績		令和8年度（2026）計画				各取り組みによる市民生活の変化	
						6月	9月	12月	3月		
行政サービス向上・市民生活の利便性向上 「住みたいまち」づくり	 1 自治体フロントヤード改革の推進	・窓口業務を担う原課 ・情報政策課	4.1 自治体DX の重点取組事項（1） 自治体フロントヤード改革の推進	計画 ワーキンググループによるシステムの調査及び導入システムの決定 ・「書かない」「待たない」「行かない」窓口の実現を目標にして、1月に窓口DXSaaS選定委員会を発足し、その中で瀬戸市が求める機能要求をまとめ業者選定を行い業者決定に至った。また、プロポーザル審査をDX推進員に報酬してもらい理解を深めた。 ・今後は導入する窓口DXSaaSをよく理解したうえでBPRを進めていく。	窓口DXSaaSの本番稼働を9月下旬からとし、それに向けてBPRを行いながら導入を進め、一部の入力業務にRPAを試行運用する。	導入作業	→ テスト運用	→ 本番稼働		来庁時の待ち時間短縮及び記載回数を減らすことができる	
	 2 AIチャットボットによる総合案内サービス運用	・回答登録を行う原課 ・情報政策課	4.1 自治体DX の重点取組事項（7） 自治体のAIの活用推進	計画 正答率の向上を図り、同時に利用者の満足度向上を目指す 令和7年度の取組により、利用者満足度および回答品質の向上には、 ・質問方法のプレを吸収するための言語処理 →類義語登録の充実化 ・新しい制度や取組に関する質問への迅速な対応 →想定質問の事前登録 が有効であることが確認できた。 ・AIチャットボットによる応答数 →有効な質問投入数:11,118件 →うち正答数:8,588件（正答率77.2%）	ホームページ、公式LINE共に生成AIを搭載した新チャットボットの運用を始め、今後アンケート結果等によりチューニングを行っていく。	ホームページ、公式LINE共に生成AIを搭載した新チャットボットの運用を始め、今後アンケート結果等によりチューニングを行っていく。	→ 新チャットボットの運用・チューニング			スマホ・パソコンからの問い合わせが効果的に見える	
	 3 あいち電子申請・届出システム利用促進	・対象業務を担う原課 ・情報政策課	4.1 自治体DX の重点取組事項（1） 自治体フロントヤード改革の推進	計画 電子申請できる業務・様式の拡大及び利用者への周知徹底 庁内共通様式を作成し、電子申請ができることを窓口にお越しになった方へ周知し、電子申請の利用促進を図った。	電子申請ができる手続きの拡大を目指すとともに電子申請ができることの周知に努める。同システムに窓口予約機能を追加し、利便性と利用率の向上を目指す。	電子申請ができる手続きの拡大を目指すとともに電子申請ができることの周知に努める。同システムに窓口予約機能を追加し、利便性と利用率の向上を目指す。	→ システムの利用（申請様式作成）を希望する原課の支援	→ 窓口での電子申請利用促進パンフレット配布	→ 窓口予約機能の追加		来庁せずに自宅などいつでも申請できる手続きが増える
	 4 情報発信アプリの利用促進	・発信情報を提供する原課 ・情報政策課	4.1 自治体DX の重点取組事項（1） 自治体フロントヤード改革の推進	計画 DX座談会による現行メニューの課題抽出・改善アイデアの議論 DX座談会での意見を基にメニューの再構築 友だち登録者数の増加（利用率の向上） 実績 TOPIX 瀬戸市LINE公式アカウントの利用促進のため、チラシ、ポケットティッシュ等を配布	利用者アンケートを行うなどとして、よりニーズに合った情報発信を目指す。	利用者アンケートを行うなどとして、よりニーズに合った情報発信を目指す。	→ アンケート	→ メニュー再構築			市からのお知らせが必要な時に必要な内容だけを受け取れる
	 5 行政サービスのキャッシュレス決済拡大	・キャッシュレスを運用する原課 ・情報政策課	4.1 自治体DX の重点取組事項（4） 公共機関におけるeL-TAXの活用	計画 キャッシュレスを導入した原課・公所への運用サポート及びeL-TAX導入に向けたシステム改修 令和8年度から順次eL-TAXを活用した公益収納を開始することを目指し、翌年度からシステム改修を行う 実績 TOPIX R6 QR/バーコード:1,850件 クレジットカード/電子マネー:1,445件 R7 QR/バーコード:2,816件 クレジットカード/電子マネー:2,794件	キャッシュレスを導入した原課・公所への運用サポート及びeL-TAX導入に向けたシステム改修	キャッシュレスを導入した原課・公所への運用サポート及びeL-TAX導入に向けたシステム改修	→ キャッシュレスを導入した原課・公所への運用サポート及びeL-TAX対応のシステム改修	→ eL-TAX対応税目を順次追加			市役所窓口・銀行・コンビニに行かなくても、いつでも各種納付ができる
	 6 マイナンバーカード普及促進・利活用	・対象業務を担う原課 ・情報政策課	4.1 自治体DX の重点取組事項（5） マイナンバーカードの取得支援・利用の推進	計画 コンビニエンスストア等での証明書取得や「電子申請届出システム」及び、「びたりサービス」のうちマイナンバーカードでの本人確認が必要な手続きもあるためPRをすることによりマイナンバーカードの普及促進・利活用を図る 実績 TOPIX マイナンバーカードを利用したコンビニ交付による証明書の発行手数料を10月1日から1年間減額することを決定。 ・マイナンバーのオンライン申請件数（R7.4月～R8.3月）1,503件	コンビニエンスストア等での証明書取得や「電子申請届出システム」及び、「びたりサービス」のうちマイナンバーカードでの本人確認が必要な手続きもあるためPRをすることによりマイナンバーカードの普及促進・利活用を図る	コンビニエンスストア等での証明書取得や「電子申請届出システム」及び、「びたりサービス」のうちマイナンバーカードでの本人確認が必要な手続きもあるためPRをすることによりマイナンバーカードの普及促進・利活用を図る	→ マイナポータル（びたりサービス）対象オンライン手続きの運用	→ 庁内関係課横断のプロジェクトチームによるマイナンバーカード活用施策の検討			マイナンバーカード取得によりDXの恩恵が広がる
	 7 各種証明書のコンビニエンスストア交付利用促進	・市民課 ・情報政策課	4.1 自治体DX の重点取組事項（5） マイナンバーカードの取得支援・利用の推進	計画 国の補助を受け、10月から1年間コンビニエンスストア及び本庁内のマルチコピー機で各種証明書の交付を受ける際の手数料を100円引きとし、より一層の利用促進を期待する。 実績 TOPIX R6 コンビニ設置機:25,613通 本庁設置機:2,678通 R7 コンビニ設置機:36,830通 本庁設置機:5,869通	コンビニエンスストア交付運用、本庁マルチコピー機運用	コンビニエンスストア交付運用、本庁マルチコピー機運用	→ 100円割引サービス	→ 証明書コンビニ交付運用	→ マルチコピー機運用（コンビニ交付と同機能）		マイナンバーカードにより、各種証明書がコンビニで交付を受けられる
	 8 メタバース「バーチャル瀬戸」を活用した地域振興	・バーチャル瀬戸を活用する原課・協力団体 ・情報政策課	4.2 自治体DX の重点取組事項（2） デジタル社会の実現に向けた取組（1） デジタル振興の推進・地域社会のデジタル化	計画 ・Seto CGKid's Programコラボ企画の開催 バーチャル空間を活用した企業広告募集を継続 ・季節の催事を開催予定 実績 TOPIX せともの祭り開催にあわせ、祭りポスターを掲示し「せともの街の記憶」と題した催しが催し瀬戸の風景写真を掲示しました。 名古屋造形大学とのコラボ企画として、バーチャル瀬戸をテーマにしたPR動画を制作し、優秀作品はバーチャル瀬戸で上映しました。 ・延べ来訪者数 →アバター（仮想人物）:R 340人	・Seto CGKid's Programコラボ企画の開催 バーチャル空間を活用した企業広告募集を継続 ・季節の催事を開催予定	・Seto CGKid's Programコラボ企画の開催 バーチャル空間を活用した企業広告募集を継続 ・季節の催事を開催予定	→ バーチャル瀬戸の運営（CG Kid's連携等） 公開イベントの開催				ICT人材育成の発表の場・バーチャルな世界で地場産業の振興が図れる
	 9 デジタルデバйд対策	・まちづくり協働課 ・デジタルバグリサーチセンター ・協力団体 ・情報政策課	4.2 自治体DX の重点取組事項（2） デジタル社会の実現に向けた取組（2） デジタルデバйд対策	計画 デジタルデバйд対策の中でも災害時対策に重きを置いてサポートをしていく 災害時のスマートフォン活用術を実践形式で学べる場を提供 【講習会】（災害時のスマートフォン活用：108名） ●全6か所（水野、本地、東明など） 【イベント出展】（防災関連イベント：190名） ●全4か所（楽しく学ぶ防災、災害ボランティア立ち上げ訓練など）	愛知県の講師派遣等を利用してデジタルデバйд対策講習を開催する	愛知県の講師派遣等を利用してデジタルデバйд対策講習を開催する	→ 講習会の企画・開催				スマホの利用方法などが苦手な方がサポートを受けられる
行政事務効率化・働き方改革 「働きやすい職場」づくり	 10 ICT支援施設（DRPC）利用促進	・デジタルリサーチパークセンター ・情報政策課	4.2 自治体DX の重点取組事項（2） デジタル社会の実現に向けた取組（2） デジタルデバйд対策	計画 次世代デジタルクリエイター育成、教職員向けプログラミング研修他の実施の継続推進 実績 TOPIX 瀬戸市消防本部の協力のもとSeto CGKid's Programを開催しました ・各講座の延べ参加者数 →Seto CG Kid's Program:116人 →CG Kid's Advance:104人 →教職員向けプログラミング研修:36人	次世代デジタルクリエイター育成、教職員向けプログラミング研修他の実施の継続推進	次世代デジタルクリエイター育成 教職員向け講座	→ 次世代デジタルクリエイター育成（Seto CG Kid's Program・CG Kid's Advance 開催）			年代・ライフシーンごとに必要になる講座を受けられる	
	 11 オープンデータの提供と利用推進	・情報政策課 ・オープンデータ提供をする原課	2.各自治体においてDXを進める前提となる基盤 実施を検討する取組(3) オープンデータの推進・官民データ活用推進	計画 オープンデータを通じて市民サービスの向上を目指す データ品質を確保するとともに、利用者視点で使いやすい自治体標準オープンデータセット形式での提供 実績 TOPIX 瀬戸市LINE公式アカウントのAEDメニュー（近隣のAEDを探索できる機能）について、最新データを提供するため、近隣市町※のAEDオープンデータが更新されたことと通知を受ける仕組みを構築 ※近隣市町 瀬戸市、尾張旭市、長久手市、日進市、みよし市、豊明市、東郷町	オープンデータを通じて市民サービスの向上を目指す データ品質を確保するとともに、利用者視点で使いやすい自治体標準オープンデータセット形式での提供	オープンデータを通じて市民サービスの向上を目指す データ品質を確保するとともに、利用者視点で使いやすい自治体標準オープンデータセット形式での提供	→ オープンデータへの利用地図のデータ整備	→ オープンデータへの利用地図の現状調査		行政の情報を統一形式で利用ができる	
	 12 市民がDX推進を実感できる	・全課 ・情報政策課	独自	計画 LINEの利用者を増やすためのパンフレット配布など、電子申請などのDXツールを身近に感じていただくための周知 実績 TOPIX LINEのリニューアルにあわせ、「広報せと」でのリニューアル内容の紹介やコンテンツの個別パンフレットを作成し周知を行った。 市内イベント等で、LINE・電子申請・バーチャル瀬戸をPRした。 この地域で賛成されている東南海地震などに備え、Yahoo! JAPANと災害協定を締結している瀬戸市をはじめとする全国の自治体での滞在中に利用ができます。	LINEの利用者を増やすためのパンフレット配布など、電子申請などのDXツールを身近に感じていただくための周知	LINEの利用者を増やすためのパンフレット配布など、電子申請などのDXツールを身近に感じていただくための周知	→ パンフレットの配布などによる市民への周知				現在のDX推進状況を実感できる
	 13 システムの標準化・共通化	・システムを利用する原課 ・情報政策課	4.1 自治体DX の重点取組事項（2） 地方公共団体情報システム等の標準化	計画 標準化対象20業務中19業務の本番運用及び残された1業務の対応方法検討 実績 TOPIX 予定通り1業務を残し標準化システムに移行し問題なく稼働した。また、間に合わない1業務に関しては引き続き業者選定及び環境構築を行う。	標準化の残された1業務の業者決定及び環境構築	標準化の残された1業務の業者決定及び環境構築	→ 業者選定	→ 環境構築			
行政事務効率化・働き方改革 「働きやすい職場」づくり	 14 AI-OCRの利用推進	・対象業務に適用する原課 ・情報政策課	4.1 自治体DX の重点取組事項（7） 自治体のAIの活用推進	計画 引き続き、DX座談会等でのモデルケースの紹介及び周知を行う 実績 TOPIX モデルケースの紹介及び周知を行った結果、業務を進めるうえでの選択肢として認知され、個別研修の引き合いも増えてきた。 ・新規登録様式数 R6：74様式 R7：125様式（13課）	引き続き、DX座談会等でのモデルケースの紹介及び周知を行う	引き続き、DX座談会等でのモデルケースの紹介及び周知を行う		→ DX推進員座談会			
	 15 テレワークの推進	・テレワーク端末を利用する原課 ・人事課 ・情報政策課	4.1 自治体DX の重点取組事項（6） テレワークの推進	計画 令和7年度から育児・介護休業法の改正により、テレワークの利用が拡大され、利用促進が見込まれるため、引き続き在宅勤務以外の活用方法に関する情報収集と周知を行う また、テレワーク端末を各部管理から情報政策課での一括管理に変更し利用促進を図る テレワーク端末を各部管理から情報政策課での管理に一元化し、全庁的に利用しやすい体制を整備した。 実績 TOPIX ・テレワーク端末のデータ利用量（GB） →R4：125.06 R5：85.97 R6：51.18 R7：29.69	引き続き在宅勤務以外の活用方法に関する情報収集と周知を行う	引き続き在宅勤務以外の活用方法に関する情報収集と周知を行う					
	 16 職員のためのDX推進	・全課	3.自治体におけるDXの推進体制の構築（3） 計画的な取組	計画 引き続き、定期的な情報提供メールマガジン（JNN）の発行と、DX推進員を対象にしたDX座談会の開催を行う また、生成AIの本格活用及び愛知県内近隣市町村が情報共有ツールとして利用している行政職員用チャットツールの導入を行う 実績 TOPIX ・生成AIの本格活用を始め、研修会を行い利用状況も好調である。 ・行政職員用チャットツールの導入を行ったが、まだ、一部の職員に対しての導入にとどまっているため、利用は一部に限定されている。 今後の課題としてユーザー数の増加を必要とする。 ・Word・Excel・PowerPointに関するワンポイントアドバイスをはじめ、前年度末に更新した新たなグループウェアの便利機能などを紹介した。 ・今年度第2回目のDX座談会を以下のメニューで開催した。 1.窓口DXSaaS 2.窓口予約システム 3. AIチャットボット 4.質疑	引き続き、定期的な情報提供メールマガジン（JNN）の発行と、DX推進員を対象にしたDX座談会の開催を行う また、生成AIをはじめとするITツールの利用促進を図る	引き続き、定期的な情報提供メールマガジン（JNN）の発行と、DX推進員を対象にしたDX座談会の開催を行う また、生成AIをはじめとするITツールの利用促進を図る	→ DXに資する活用知識の発信（JNNニュース発行） DX推進員座談会	→ DX推進員座談会			

瀬戸市DX 重点取り組み事項の令和7年度実績と令和8年度計画

期日	重点取組事項	令和7年度（2025）実績	令和8年度（2026）計画	各町の取り組みによる 市民生活の変化
行政サービスの向上・市民生活の利便性向上 （住みよいまちづくり）	 1 自治体フロントヤード改革の推進	計画「ワンストップ」によるシステムの統合及び導入システムの決定 「行きかたない」「行きなない」「行かない」窓口の削減を目標として、1月に窓口DXaaS実証実験を実施し、その中で「市民生活」にある課題を抽出し、その課題を解決し、市民生活に繋がる。また、プロポーザル審査をDX推進員に依頼して、その課題を解決する。 →今は導入する窓口DXaaSをより確実にしたうえでBPRを進めている。	窓口DXaaSの実証実験を9月下旬からとし、それに向けてBPRを行いながら導入を進め、一部の業務にRPAを試行運用する。	来庁時の待ち時間短縮及び記載回数減らすことができる
	 2 AIチャットボットによる総合案内サービス運用	計画正確率の向上により、同時に利用者の満足度を向上を目指す。 令和7年度の取組により、利用満足度および回答品質の向上は、 ・質問方法のバリエーションを吸収するための意識徹底 ・回答品質の向上 ・問い合わせの増加に関する質問への迅速な対応 ・顧客満足度の向上 が有効であることが確認できた。 →AIチャットボットによる応答数 →問い合わせ件数増加1.11.1.1件 →満足度:8,588件（満足率77.2%）	ホームページ、公式LINE共に生成AIを活用した新チャットボットの運用を始め、今後アンケート結果をよりチャージングを行っていく。	スマホ・パソコンからの問い合わせが効率的に行える
	 3 あいち電子申請・届出システム利用促進	計画電子申請である業務・様式の拡大及び利用者の周知徹底 電子申請である業務・様式の拡大及び利用者の周知徹底 電子申請である業務・様式の拡大及び利用者の周知徹底	電子申請ができる業務の拡大を目指すとともに電子申請ができることの周知に努める。同時に窓口予約機能を追加し、利便性と利用率の向上を目指す。	来庁せずに自宅などからでも申請できる手続きが増える
	 4 情報発信アプリの利用促進	計画DX推進員による利用メニューの課題抽出・改善アイデアの抽出 DX推進員との意見交換によりメニューの再構築 市民生活に繋がる情報の発信（利用者の声） 県戸別LINE公式アカウントの活用促進のため、チラシ、ポスターチラシ等を配布	利用者がアンケートを行うことで、よりニーズに合った情報発信を目指す。	市からのお知らせが必要な時に必要な内容だけを受け取れる
	 5 行政サービスのキャッシュレス決済拡大	計画キャッシュレス導入した施設・公所の運用サポート及びeTAX導入に向けたシステム改修 市民生活に繋がる施設・公所の運用サポート及びeTAX導入に向けたシステム改修 市民生活に繋がる施設・公所の運用サポート及びeTAX導入に向けたシステム改修	キャッシュレスを導入した施設・公所の運用サポート及びeTAX導入に向けたシステム改修	市役所窓口・銀行・コンビニなどに行かなくても、いつでも各種納付ができる
	 6 マイナンバーカード普及促進・活用	計画コンビニエンスストアでの証明写真取得や電子申請提出システム及び「びんくろ」の活用 マイナンバーカードの普及促進 マイナンバーカードの活用 		

 「働きやすい職場」づくり	 13 システムの標準化・共通化	計画 標準化対象2 0業務や1 9業務の共通適用及/或れた1 業務の対応方法検討 予算通り1 業務を2 業務システムに移行し開始可能にした。また、間に合わない1 業務に関しては引き続き業務推進定及び環境構築を行う。 計画 引き続き、DX推進定で各システムへの紹介及び周知を行う	標準化の残された1 業務の業務定義及び環境構築
	 14 AI-OCRの利用推進	実績 2024 デジタルケースの紹介及び周知を行ってきた結果、業務を進めるうえでの理解度向上に認知され、新規情報の引き合いも増えた。 ・新設登録簿改訂 R5 : 7 4 種式 R7 : 1 2 5 種式 (1 3 種式)	引き続き、DX推進会等でのデジタルケースの紹介及び周知を行う
	 15 テレワークの推進	計画 令和7年度から育児・介護休業法の改正により、テレワークの利用が拡大され、利用促進が見込まれる。引き続き在宅勤務以外の活用方法に関する情報収集と実施を行う。 また、テレワーク推進を各部署の情報政策課での一括管理・実施、利用促進を図る テレワーク端末を各部署管理から情報政策課での管理へ一元化し、全庁的に利用しやすい体制を整備した。 実績 2024 ・テレワーク端末のデータ利用量 (GB) →R 4 : 125.06 R5 : 85.97 R6 : 51.18 R7 : 29.69	引き続き在宅勤務以外の活用方法に関する情報収集と実施を行う
	 16 職員のためのDX推進	計画 引き続き、定期的な情報提供メールマガジン (JNN) の発行と、DX推進員を対象にしたDX相談会の開催を行う。 また、生田Aの本格運用及び認知度向上策市町村が情報共有ツールとして利用している行政機関用チャットツールの導入を行う ・生田Aの本格運用開始、研修等を行い利用状況も好転であると。 ・行政機関用チャットツールの導入を行うが、まだ一部の職員に列の導入と定まっておらず、利用は一部に限定されている。 ・今後の認識向上とユーザーの増進をする必要がある。 ・Word・Excel・PowerPointに関するウェブソフトドバイスなどは、毎年年度末に更新した最新のバージョンのソフトウェアの更新を完了した。 ・今年度第2 回目のDX相談会を以下のメニューで開催した。 1.窓口DXSaaS 2.窓口予約システム 3. AIチャットボット 4. 質疑	引き続き、定期的な情報提供メールマガジン (JNN) の発行と、DX推進員を対象にしたDX相談会の開催を行う また、生田AをはじめとするITツールでの利用促進を図る

(「瀬戸市DX 重点取り組み事項のロードマップ 令和8年度版」より抜粋)

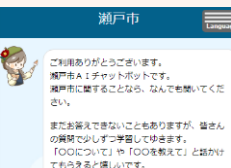
令和8年7月29日

企画部 情報政策課



1 自治体フロントヤード改革の推進

- 「書かない」「待たない」「行かない」窓口の実現を目標にして、1月に窓口DXSaaS選定委員会を発足し、その中で瀬戸市が求める機能要求をまとめ業者選定を行い業者決定に至った。また、プロポーザル審査をDX推進員に観覧してもらい理解を深めた。今後は導入する窓口DXSaaSをよく理解したうえでBPRを進めていく。



2 AIチャットボットによる総合案内サービス運用

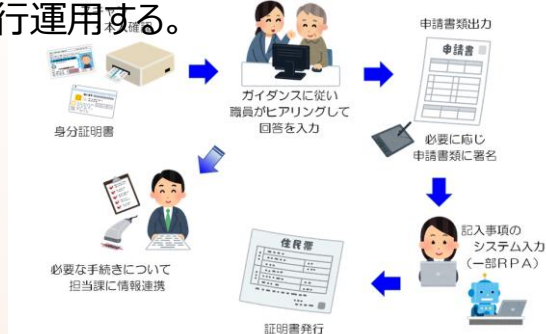
- 令和7年度の取組により、利用者満足度および回答品質の向上には、
 - ・質問方法のブレを吸収するための言語処理
⇒類義語登録の充実化
 - ・新しい制度や取組に関する質問への迅速な対応
⇒想定質問の事前登録
 が有効であることが確認できた。
- 令和8年度からは、利用者満足度のさらなる向上を図るため、瀬戸市のホームページ情報をリアルタイムに読み込み回答する生成AI型のチャットボットを導入する。
 - ・言語処理能力と即応性が向上し、満足度向上に直結する



この取り組みによる市民生活の変化

来庁時の待ち時間短縮及び記載回数を減らすことができる

- 目標にしている「書かない」「待たない」「行かない」窓口のうち「書かない」「待たない」を実現するべく、窓口DxSaaSの本番稼働を9月下旬からとし、それに向けてBPRを行いながら導入を進め、一部の基幹業務入力作業にRPAを試行運用する。



この取り組みによる市民生活の変化

スマホ・パソコンからの問い合わせが効率的に行える

- ホームページ、公式LINE共に生成AIを搭載した新チャットボットの運用を始め、今後アンケート結果等によりチューニングを行っていく。
- 多言語対応について直接母国語で問合せできるので利用しやすくなった

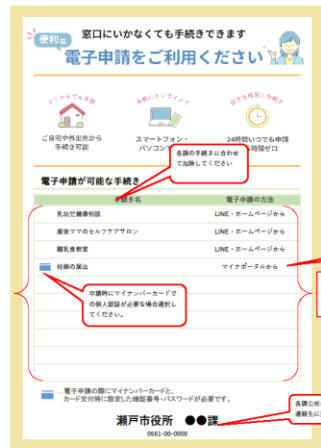


瀬戸市ホームページ



瀬戸市公式LINE

3 あいち電子申請・届出システム利用促進



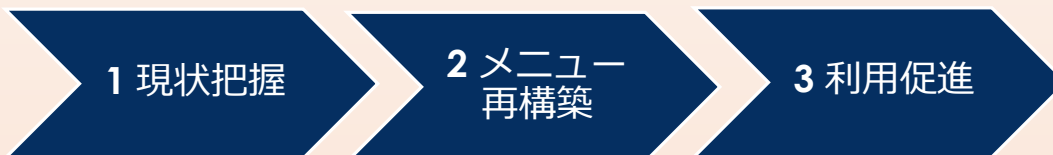
庁内共通様式を作成し、電子申請ができることを窓口にお越しになった方へ周知し、電子申請の利用促進を図った。

- 目標にしている「書かない」「待たない」「行かない」窓口のうち「行かない」を推進するべく、電子申請できる業務・様式の拡大及び利用者への周知を行う。例として、電子申請が用意してある手続きに窓口へお越しになった方へ、次回電子申請を促すパンフレットを配布するなどして、利用促進を図る。
- 現行システムに窓口予約機能を追加し、利便性と利用率の向上を目指し「待たない」を実現する。



4 情報発信アプリの利用促進

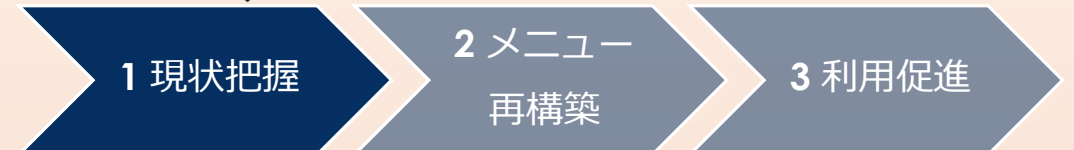
- 瀬戸市LINE公式アカウントの利用促進のため、チラシ、ポケットティッシュ等を配布



- 友だち登録者数の増加（利用率の向上）



- ・わかりやすいメニュー設計
- ・導線強化のための配置改善



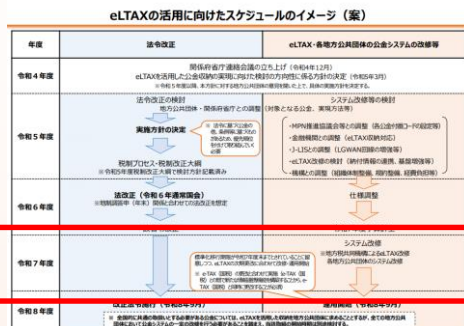
- ・利用状況の把握
- ・課題抽出



・瀬戸市ホームページ
パンフレットでの周知

5 行政サービスのキャッシュレス決済拡大

- 令和8年度から順次eLTAXを活用した公金収納を開始することを目指し、翌年度からシステム改修を行う



6 マイナンバーカード普及促進・利活用

- マイナンバーカードを利用したコンビニ交付による証明書の発行手数料を10月1日から1年間減額することを決定。

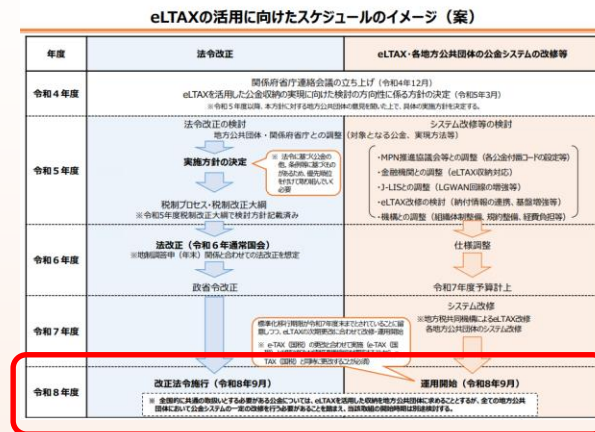
コンビニ交付の証明書の手数料が
100円お得※になります。
※期間限定（令和7年10月1日から令和8年9月30日）

取得できる各種証明書	手数料(窓口)※5	対象者
住民票の写し ※1	200円(300円)	瀬戸市に住民登録がある世帯全員及び世帯の一部
印鑑登録証明書	200円(300円)	印鑑登録をされている方
戸籍全部（個人）事項証明書	※2 350円(450円)	瀬戸市に本籍がある筆頭者及び同じ戸籍の方
戸籍の附票の写し		
所得課税証明書	200円(300円)	当該年度分のみ ※3

この取り組みによる市民生活の変化

市役所窓口・銀行・コンビニに行かなくても、いつでも各種納付ができる

- eLTAXを活用した公金収納追加のためのシステム改修を行い、今年度9月より対応できる税目を順次追加していく



この取り組みによる市民生活の変化

マイナンバーカード取得によりDXの恩恵が広がる

- 今年度9月末までコンビニエンスストア等での証明書取得を100円減額することによりマイナンバーカードの普及促進を図る



もうすぐ有効期限を迎える方は更新手続きをお忘れなく

7 各種証明書のコンビニエンスストア交付利用促進

- 国の補助を受け、10月から一年間コンビニエンスストア及び本庁内のマルチコピー機で各種証明書の交付を受ける際の手数料を100円引きとし、より一層の利用促進を期待する。



期間限定で100円
OFF

8 メタバース「バーチャル瀬戸」を活用した地域振興

- せともの祭開催にあわせ、祭りポスターを掲示し「せとものの街の記憶」と題した懐かしい瀬戸の風景写真を掲示しました。



- 名古屋造形大学とのコラボ企画として、バーチャル瀬戸をテーマにしたPR動画を制作し、優秀作品はバーチャル瀬戸で上映しました。



この取り組みによる市民生活の変化

マイナンバーカードにより、各種証明書がコンビニで交付を受けられる

- 今年度9月末まで100円減額することによりコンビニエンスストア及び本庁マルチコピー機の利用促進を図る



この取り組みによる市民生活の変化

ICT人材育成の発表の場・バーチャルな世界で地場産業の振興が図れる

- Seto CGKid's Programコラボ企画の開催
- バーチャル空間を活かした企業広告募集を継続
- 季節の催事を開催予定



バーチャル瀬戸内の広告イメージ



9 デジタルデバйд対策

- 災害時のスマートフォン活用術を実践形式で学べる場を提供

【講習会】（災害時のスマートフォン活用：108名）

- 全6か所（水野、本地、東明など）

【イベント出展】（防災関連イベント：190名）

- 全4か所（楽しく学ぶ防災、災害ボランティア立ち上げ訓練など）



10 ICT支援施設（DRPC）利用促進



瀬戸市消防本部の協力のもとSeto CGKid's Programを開催しました

- 上記の他、市民向けのスマホ・パソコン講座を開催



夏休み子供向けプログラミング講座



この取り組みによる市民生活の変化

スマホの利用方法などが苦手な方がサポートを受けられる

- 愛知県の講師派遣等を利用してデジタルデバйд対策講習を開催する予定です

愛知県
講師派遣事業

NPO

ICT支援員



DRPC・地域交流センター・公民館等で
愛知県講師派遣事業・NPO・ICT支援員の協力を得て開催

この取り組みによる市民生活の変化

年代・ライフシーンごとに必要になる講座を受けられる

- 次世代デジタルクリエイター育成、教職員向けプログラミング研修他の実施の継続推進

次世代クリエイター育成から対デジタルデバйд講座まで、年代・ライフシーンに必要な講座を企画開催

次世代クリエイター育成

Microsoft Office 講座

各種プログラミング講座

対デジタルデバйд講座

令和**7**年度（実績）

11 オープンデータの提供と利用推進

- 瀬戸市オープンデータ及びくらしの便利のメンテナンスを実施

- 瀬戸市LINE公式アカウントのAEDメニュー
（近くのAEDを検索できる機能）について、
最新データを提供するため、近隣市町※の
AEDオープンデータが更新されたときに通知
を受ける仕組みを構築



※近隣市町

瀬戸市、尾張旭市、長久手市、日進市、
みよし市、豊明市、東郷町



本文記載情報

- ・ AEDオープンデータに変更があった市町名
- ・ URL (CSVデータ)

12 市民がDX推進を実感できる

- LINEのリニューアルにあわせ、「広報せと」でのリニューアル内容の紹介やコンテンツの個別パンフレットを作成し周知を行った。
- 市内イベント等で、LINE・電子申請・バーチャル瀬戸をPR



- 上記「11 オープンデータの提供と利用推進」の「AEDの検索に近隣市町のオープンデータを活用」を参照
- この地域で警戒されている東南海地震などに備え、Yahoo! JAPANと災害協定を締結している瀬戸市をはじめとする全国の自治体での滞在中に利用ができます。

令和8年度（計画）

この取り組みによる市民生活の変化

行政の情報を統一形式で利用できる

- オープンデータ・くらしの便利地図の整備

- ・オープンデータを通じて市民サービスの向上を目指す
- ・データ品質を確保するとともに、利用者視点で使いやすい形式での提供



この取り組みによる市民生活の変化

現在のDX推進状況を実感できる

- LINEの利用者を増やすためのパンフレット配布など、電子申請などのDXツールを身近に感じていただくための周知
 - 目標にしている「書かない」「待たない」「行かない」窓口のうち「待たない」を実現するべく、窓口予約システムの導入を行い順次利用可能な窓口業務を広げていく
- [TOP](#) [デジタル市役所](#) 



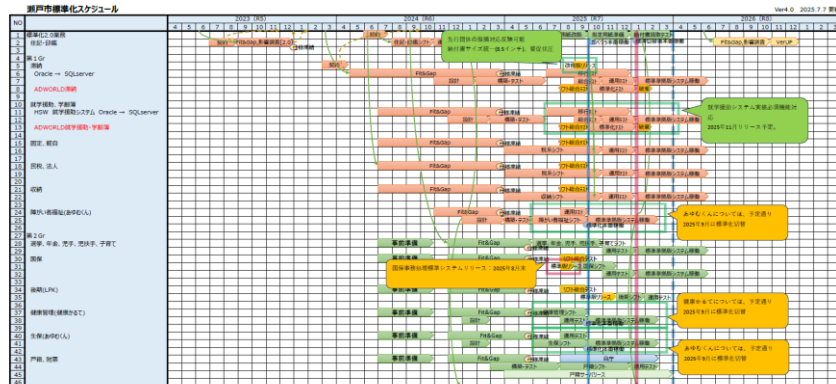


令和7年度（実績）

令和8年度（計画）

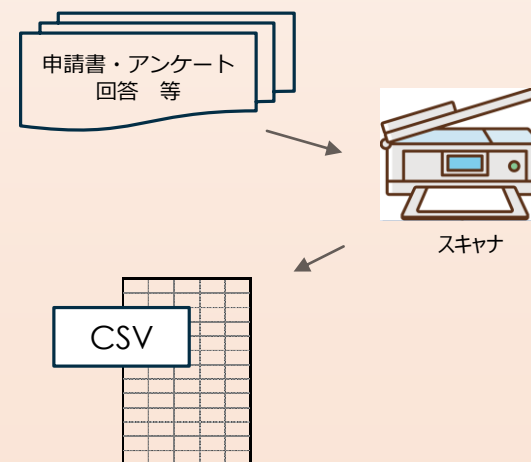
1.3 システムの標準化・共通化

- 予定通り1業務を残し標準化システムに移行し問題なく稼働した。また、間に合わない1業務に関しては引き続き業者選定を行っていきます。
- 介護保険業務の業者選定を早急に行いスムーズな導入を目指す
- 業者が決まり次第、開発期間及び本稼働日等を報告します



1.4 AI-OCRの利用推進

- モデルケースの紹介及び周知を行ってきた結果、業務を進めるうえでの選択肢として認知され、個別研修の引き合いも増えてきた。
- 引き続き、DX座談会等でのモデルケースの紹介及び周知を行う





15 テレワークの推進

- テレワーク端末を各部管理から情報政策課での管理に一元化し、全庁的に利用しやすい体制を整備した。

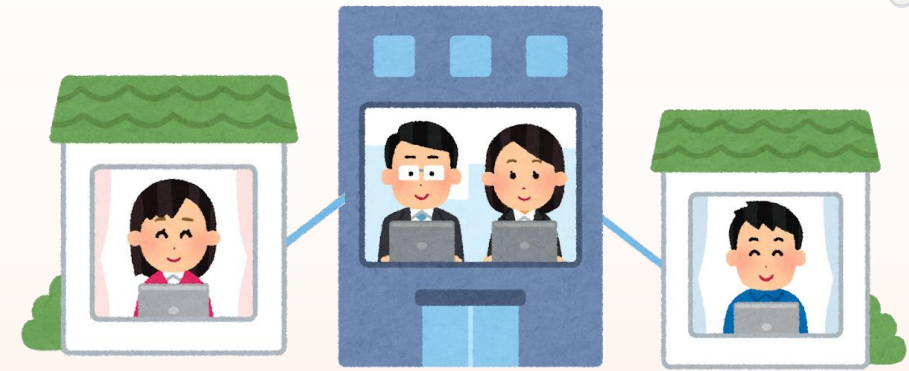


16 職員のためのDX推進



- 生成AIの本格運用を始め、研修会を行い利用状況も好調である。
- 行政職員用チャットツールの導入を行ったが、まだ、一部の職員に対しての導入にとどまっているため、利用は一部に限定されている。
今後の課題としてユーザー数の増加をする必要がある。
- Word・Excel・PowerPointに関するワンポイントアドバイスをはじめ、前年度末に更新した新たなグループウェアの便利機能などを紹介した。
- 今年度第2回目のDX座談会を以下のメニューで開催した。
1. 窓口DXSaaS 2. 窓口予約システム 3. AIチャットボット 4. 質疑
※ 窓口DXSaaSのプロポーザル審査の観覧

- 引き続き在宅勤務以外の活用方法に関する情報収集と周知を行う



- 引き続き、定期的な情報提供メールマガジン（JNN）の発行と、DX推進員を対象にしたDX座談会の開催を行う
また、生成AIをはじめとするITツールの利用促進を図る
- 窓口DXSaaS導入の際に一部基幹業務への入力にRPAを試行運用し、今後の事務改善に期待する
- 窓口予約システムの導入を行い、ピーク時の混雑抑制と人員配置の最適化を目指す